

乳幼児の頭部打撲

医者の仕事には、いくつになっても「初体験」ということがある。寿命の縮む思いもする。

1歳のA子ちゃん。ワッシーの顔を見て、ニコニコしている。お母さんの話では、3日前に、お兄ちゃんが抱っこをしていて床に落とし、頭を打ったらしい。A子ちゃんは、大泣きをした。がその後は、いつもと変わりはしない。でも、右の頭の上のほうにできた大きなたんこぶが心配だという。

お母さんは、骨折や頭の中の出血を心配しているのだ。レントゲン写真とCT（コンピュータ断層撮影）を撮れば、簡単に結論は出る。頭部外傷のガイドラインでも、おでこ以外のたんこぶならCT検査が必要だということになっている。だが、そう簡単に検査、検査と言われても困る。聞き分けのない乳幼児を動かさないように検査するなんてチョー難しいことなのだ。

だいたい、頭の中に出血でもすれば、意識状態はもちろん機嫌くらはいは悪くなるはずだ。ところが、いつもと違う様子があるだろう。少なくとも、ニコニコしてはおれない。まさか、ワッシーの前で泣かないこ

とが、異常の証だというのが、などと悩んだりする。

A子ちゃんに小児用の睡眠薬も効かず、検査をあきらめかけた時だった。やっと、眠ってくれた。で。その結果は、なんと。たんこぶの下に骨折と急性硬膜外血腫が見付かったのだ。危ない、アブナイ。幸いにも血腫は薄く、脳への圧迫が少ないので手術をする必要はない。血腫は、3週間ほどで消失した。ハラハラ、ドキドキの患者さんであった。

ところで、子供が頭を津強く打ち、意識がなくなって様子がおかしい。機嫌や顔色が悪くなる。けいれんなど起きたら、すぐに、救急車だ。手術ができるような病院へ行かなければならない。老医の手を煩わせる時間はない。

（石黒修三＝いしへろく三ニニック・脳神経

外科医：125北國新聞掲載）